



夢・いっぱい

第5号

令和4年7月19日

2022年度の経営方針

今日の学び合いを楽しみ、明日が待ち遠しい学校づくり
～ 開かれた学校において、「愛宕の子」として地域と共に育てる ～

校長 栗林 孝幸

一学期の終業式を迎えます。今年もコロナ禍の一学期でした。

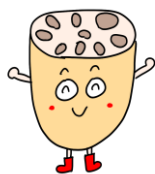
終業式で子どもたちに三つのことを話します。

一つ目は始業式に話した「6年生はリーダーである」ということについての振り返りです。この一学期6年生は様々な場面でリーダーとしての姿を見せてくれました。もちろんそうでなかったこともありました。自分のことだけを考えている、リーダーは務まりません。リーダーは我慢強さが求められるのです。

二つ目は、これも始業式に約束した「自分がされて嫌なことは人にしない。自分が言われて嫌なことは人に言わない」ことの振り返りです。これも相手との関係性の中で、できたときもそうでなかったときもありました。人を大切のできる人は人から大切にされます。結局自分に返ってくるということもこれから学ばなければなりません。

最後三つ目は、夏休みに是非やってほしいこと「本を読む」「手伝いをする」「安全に過ごす」です。最近本を手にしてじっくり読む機会も減ってきたのかもしれませんが、時間があるこの夏休みに少しでも多くの本を手にして心の栄養を蓄えてほしいと思っています。また、家の手伝いは家族としての自覚を持つ上でも欠かせません。学年に合わせて是非役割を持たせてほしいと思います。最後に、この夏休みもいろいろな意味で安全に過ごしてほしいと子どもたちに伝えます。長い休みに入りますが、子どもたちにとって充実した楽しい休みになりますよう祈っています。

九九道場



前回、学校運営協議会においてお願いした学習支援がスタートしました。3年生の九九道場を行いました。毎週火曜日、木曜日、金曜日に行いました。毎回、予想を超える6～7名のボランティアの方に来ていただき子どもたちの九九修行のお手伝いをしていただきました。一つの段の九九を10秒以内に間違いなく言えるとカードにスタンプを押してもらえます。早々に合格できる子どももいれば、なかなか苦戦する子どももいます。何度も何度も練習し、時には涙を見せる子どももいますが、地域のボランティアの方に励まされ頑張っています。本当にありがたいことです。一学期の九九道場は終了しましたが、二学期が始まったらすぐにスタートさせたいと思っています。お手伝いいただける地域の方がいらしゃいましたら学校までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

大切な言葉

「言葉は、人を傷つけることも助けることも生かすこともできる。」学校生活の中で本当に実感します。

子どもにはやさしい言葉をかけてほしいと思います。もちろんいけないことをした時には「こらー！」となるわけですが、できるだけ子どもがやる気になるような言葉をかけてほしいと思います。

子どもたちの中には親から愛されていると実感できずにいる子がいます。そういう子は心が安定しないので、自己肯定感が低く、自分に自信がないことが多く、人に対してつらく当たりがちです。

「あなたを産んでよかった」20年前に母が亡くなる直前に私にかけてくれた大切な言葉です。今でも私を支えてくれる言葉です。「あなたがいてくれてよかった」と是非伝えてください。子どもは変わります。